

令和3年度 第1回 魚沼地域定住自立圏共生ビジョン懇談会 議事録

と き：令和3年9月21日（火）9時30分から11時15分まで

ところ：南魚沼市民会館 2階 会議室

1 出席者

魚沼地域共生ビジョン懇談会委員（以下、各市町五十音順）

○魚沼市

枝村和枝委員（欠席）、小林栄一委員（欠席）、星麻衣副会長、高橋和利委員

○湯沢町

井熊充委員、貝瀬健太副会長、高野理香委員、高橋淳夫委員（欠席）

○南魚沼市

井上智明委員、関聡会長、南雲純子委員（欠席）、樋口昌敏委員

各市町職員

●魚沼市

事務局：企画政策課 浅井企画調整係長、内田主任

●湯沢町

事務局：企画政策課 平賀企画係長

●南魚沼市

石田総務部長

事務局：高橋企画政策課長、須藤行革主幹、平松主事

2 議事

【1】開会 （進行：高橋企画政策課長）

【2】挨拶 （関会長）

【3】議事 （進行：関会長）

（1）パブリックコメントに対する意見と対応方針について（説明：平松主事）

使用資料・・・資料1、資料2

関会長）パブリックコメントの意見と対応の審議ということだが、3つの意見に対して特段ビジョンの修正はしない方針となっている。事務局からの説明について意見や質問はあるか。

委員）異議なし。

関会長）それではこの方向で事務局に進めていただくことにする。

(2) 第2期共生ビジョンの原案について(説明:平松主事)

使用資料・・・資料2

関会長)事務局からの説明について意見や質問はあるか。

委員)異議なし。

関会長)ここまで委員の皆さんから意見をいただいて作ってきたものなのでよろしいか。それではこの原案のとおり進めるということにさせていただきます。

【4】その他(進行:関会長)

(1) 魚沼地域定住自立圏の今後について(説明:高橋企画政策課長)

事務局)ここでは委員の皆さんから魚沼地域定住自立圏の今後について、ぜひ忌憚のない意見をいただきたい。連携事業を進めるうえでネックとなっている部分について3つテーマを用意させていただいた。

1つ目はスポーツ施設と文化施設の相互利用の実現について、2つ目は廃棄物等広域連携事業の今後について、3つ目はコロナ渦におけるU I J ターンの促進について。以上のテーマについて委員の皆さんからご意見をいただきたい。

関会長)行政が事業を進めるにあたって、ぜひ民間の立場からの意見を求めたいということである。皆さんから意見はいかがか。

委員)スポーツ施設の相互利用について、市民のニーズが少ないということだが、こういう施設があるとか、こういう活動している団体があるということをもっと積極的にPRする必要があると思う。相互利用のことも含め、案外若者は知らない人が多いはず。まず、第一段階としてPRの仕方を具体的に検討した方がいいと思う。

委員)2市1町の自転車の取り組みは、地元のサイクリストとしてすばらしいと思っているが3点ほどお願いがある。

1つ目は自転車を掛けられないような設置のされ方をしているサイクルスタンドの改善。2つ目はサイクルスタンドの設置場所について、設置の意図が不明な場所もあるため、それよりもっとコンビニや地蔵清水など補給に便利な場所を充実させてほしい。3つ目は赤坂を通るとき車に轢かれそうになり危険であるため安全策を講じてほしい。赤坂が原因で湯沢への自転車の往来が妨げられていると思う。

以上を少しずつ改善して魅力あるナショナルサイクルルートにしてほしい。

関会長)私も自転車に乗る立場からして、赤坂は非常にネックになっていると思う。

確か市で今何か検討しているはず。

事務局)現在、赤坂ではなくて旧17号を掘切に抜けていくルートの整備を検討して

いる。

関会長) 南魚沼市の生涯スポーツ課でやっているスポーツ施設をまとめたホームページがあったと思うが、それも2市1町で連携すべきだと思う。小さな市町で同じようなサイトがいくつもあってもしょうがないため、2市1町の施設とその相互利用の方法も一緒に載せて、スポーツ好きの人たちにQRコードを知らせるというのもPRの方法としてはいい。

関会長) RESASを見ると2040年の人口が2市1町で合わせて約6万5千人になる。これは2000年の南魚沼市の人口と同等である。そのときに2市1町各々で施設を維持していくのは無理なように思う。

不要な施設は閉じて、4面の体育館や50mプールなど大きくて魅力的な施設を高速道路のインターの周辺に集約する。そうすると、各市町には高速道路のインターがたくさんあり、移動時間はそれほどかからないため、時間的なコンパクトシティは造れると思う。NEXCOと協力して、施設を利用する場合は高速道路の利用料を無料にするなどの施策を講じながら、2040年の人口を意識したまちづくりをしていくべきだと思う。

関会長) ごみ処理施設についても、東京にあるようなオフィスが入っていたり、排熱を利用したスポーツ施設が併設されているようなきれいなイメージで、誘致合戦が起こるような大きな画を描かないと何も前に進んでいけないと思う。ここでもやはり、将来の人口を意識したまちづくりの視点が2市1町には必要である。

委員) U I Jターンの促進というテーマがあったが、私は人口減少の主な原因は子育てのしにくさにあると思う。この定住自立圏のベースはやはり人口減少をどうにかしようということにあると思うので、もう少し人口減少に対する取り組みが大きく取り上げられてもいいはずである。

事務局) 共生ビジョンの中では、人口減少対策というのはそれほど大きくクローズアップされていないが、それはどこの自治体でも一番のメインテーマとして取り組んでいると思う。

ただ、定住自立圏としての取り組みとしては、移住・定住施策については各市町の間で少し競争原理のようなものが働くため、2市1町でどのように連携するかという部分は難しさを孕んでいる。

都会の人の目には、おそらく2市1町がどれも同じに映ると思うので、とりあえずはこの地域に来てもらえればいいというスタンスでもいいのかもしれない。

委員) U I Jターンに関連して、今コロナの影響でテレワークや時差出勤が盛んになり、非常に通勤しやすい状況になっている。仕事の内容によっては湯沢に住みながら東京へ通勤できる人もいるので、そういう環境にある人にうまくPRできたらいいと思う。東京で狭いマンションで暮らすよりも、土日は魚沼地域で自転車を漕いだ方が精神衛生上もいいはず。

関会長) 先の「時間のコンパクトシティ」の話について補足すると、現在国土交通省では空のルール作りをしていて、20年から30年度後は、間違いなくドローンによる空の移動手段ができています。そうすると、10分あればどこにでも行けてしまうというような時間のコンパクトシティ化が一気に進むはずなので、この辺りも視野に入れながら今後は構想を練り、施設集約も検討していくべきだと考える。

委員) 今まで出てきた未来志向のすばらしい意見を聞いて、地域に住む一般の人たちはどれだけ実感が湧くだろうか。コロナの影響で出不精になっている人が多い現状ではなおさらである。

なので、せっかく今日出たい意見について、いかに心躍る形で、賛同してもらえる形で地域の人たちに伝えていくかということが今後大事になっていくと思う。ハード面も大事だが、先のPRの話のようにソフト面も非常に大事である。

関会長) 確かに、コロナで一時外へ出なくなったので、外へ出る仕組みづくりも大事である。でないと、せっかくの施設も利用されなくなってしまう。

事務局) 私たちはコロナの前の時代を当然知っているわけだが、小さな子どもたちは、コロナ渦の今が当たり前と思っているかもしれない。その子たちに人に会うとか、イベントや祭りに参加するというのを、コロナが終わってからどのように教え、経験させるのかは課題だと思う。

関会長) ポケモンGOのようにメディアをうまく活用するのがいいかもしれない。現地へ行って、例えば運動やお祭りと混ぜるとか。南魚沼クリテリウムをメディアで解説付きで見られたり、ゲームができてしまうとか。

5Gが出たばかりでもう6Gの話題が出ているが、情報の時代なので、メディアありきで人を外に出させる仕組みというのは面白いのかなと思う。

委員) 私は地域においても学校の授業においても直接の対面での人間関係、直接言葉を交わす関係が非常に大切だと思っている。しかし、メディアが普及し生活が便利になった現在では、隣の人とあいさつをするとか、会話を交わすということを積極的にしていかないと、人から直接対面で情報が伝わってこない。

行政の情報が市民に伝わらない原因はそこにあると思う。広報紙を出すと、市民の皆さんにお知らせしたと満足するが、それは文字として伝わっているのであって、直接言葉として伝わっていないため、心の中に残ってこない。

この共生ビジョンや他のすばらしい計画も市民とうまく共有できてこそ初めて生きてくると思う。ぜひ絵に描いた餅にならないよう市民にPRする方法、情報共有する方法を今一度研究してほしい。

関会長) PRの方法に関連して、私は南魚沼市のホームページを見ていて、もう少し遊び心があると、もっと人が見てくれるのかなと思っている。市長の政策の目玉みたいなもので「今年はこれやりますよ」みたいな動画を載せたりだとか。選挙

の時の動画はかなり再生数が上がっていたし、動画の活用も伝わりやすいのかなと思う。

委員) 私は2本立てがいいのかなと思う。動画が好きな人には動画で、対面の方が好きという人もいるから、手間かもしれないけど、大事なところはきちんと顔を合わせて伝えるという方法を用意する工夫も必要だと感じる。

オンラインで研修を受けていてもよく伝わってこないことが、人とこうやって対面して会議をしていると、場の雰囲気や人の気持ちがすごく伝わりやすいという場合もある。

関会長) いろいろな方法を使いながらPRすることは重要だ。やはり対面の良さ、ここ一個に集中できるっていうのも非常に大事かなと思う。

関会長) 生涯スポーツ課のスポーツ施設のホームページに相互利用のPR動画があるといい。ただ文字と施設の写真があるより、その画面にいくと動画が勝手に再生される仕様にして、施設を利用している人のかっこいい姿や子どもが楽しんでいる様子などを、無理やり見せてしまうというのもいいかもしれない。

委員) UIJターンに関連して、転出の原因が県外への進学ということなので、コロナ禍でオンラインが注目される中、自宅に居ながら県外の専門的な勉強ができるような仕組みが出来ればすごくいいと思う。大学のオンライン授業や、予備校みたいなサテライト授業のようなもので、ちょっと集まって勉強できるというものがあってもおもしろい。むしろ定住自立圏という意味では外に出さないっていうのも1つ有効かと。

関会長) その通りだと思う。まず外へ出さないで、そのまま地元で就職してもらえようというのはおもしろい。

委員) 移住してきた方への補助はどの市町村でも手厚くしているが、逆に地元に残させることに対しては補助をしているだろうか。例えば、湯沢町がやっている新幹線で首都圏へ通勤する人たちに補助する取り組みとか。そういうところにもう少し重きを置いてもいい。

委員) 確かに都会から来る人への補助はあるが、地元に残った人には何もない。なので、地元に残った人へ何か目玉となるものを用意したり、2市1町の魅力など地元に残ってもいいことがあるということを各市町のYouTubeを通じてもう少しPRしてもいい。

これは余談だが、都会から来て補助金をもらうだけもらったら、すぐ都会へ戻ってしまう人がいるという噂を聞くが本当だろうか。

事務局) 残ってくれてありがとうという視点はなかった。大変おもしろい考えだ。

移住支援金については、やはり一定程度住んでもらうことが、どこの自治体の制度でも条件となっていて、早くいなくなる人からは支援金を返してもらうのが基本である。

委員)新ごみ処理施設について、仮に今後建設場所が決まったとしても、完成まで7、8年かかるはずだ。現状どの施設も老朽化しているため、さあ動きませんとなったときのことを考えると、あまり先延ばしにはできない問題である。

やはり東京にあるスポーツ施設が併設されて、人が住む場所のど真ん中にあるようなすばらしいごみ処理施設を、動画や広報紙を用いて地域の人たちに紹介するべきだ。

委員)U I Jターンについて、共生ビジョンの定住促進事業に相談会やセミナーというのが載っているが、このコロナ渦では、それらを開催する前段の情報発信が非常に重要だと思う。

それと、ハローワークは仕事を紹介してくれるが、住むところは紹介してくれないと思うので、働くところと住むところを一緒に紹介してくれるようなコンテンツを市町村で充実してもらおうと若者は助かると思う。

関会長)働くところと住むところを一緒に紹介するのは、南魚沼市はまちづくり推進機構が市とタイアップしてやっているが、こういうのは湯沢町や魚沼市ではやっているか。

事務局(湯沢町)湯沢町では、移住相談は民間業者に委託しており、相談窓口を一か所設けている。そこで住むところと働くところを複合的に案内している。

事務局(魚沼市)魚沼市は、就業は就業、定住は定住とそれぞれ担当部署が分かれている。やはり双方の連携がないと定住に結びつかないということで課題と感じている。

関会長)コロナが落ち着くと、また南魚沼市のまちづくり推進機構でUターンバスが活発に動き出すと思うが、これも2市1町で連携して一緒にやってしまった方がいい。

ひとつの案としては、将来的にこういうまちづくりの社団法人とかも2市1町で1個にまとめてしまって、少し職員を増やして運営していくというのも面白いかなと思う。

たくさん意見を出していただいた。以上で討論を閉めさせていただく。

(2) 事務連絡(説明:高橋企画政策課長)

(3) 部長挨拶(石田総務部長)

【5】閉会(星副会長)

(11時15分閉会)